

(電子メール施行)
農技第1156号
平成29年5月30日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成29年度病虫害発生予報第2号を発表します。

平成29年度病虫害発生予報 第2号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(葉いもち)	平年並	やや少
	ばか苗病	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	やや多	やや多
	海外飛来性ウンカ類 (セジロウンカ、トビイロウンカ)	平年並	少
ナシ	黒斑病	平年並	やや少
	黒星病	平年並	やや少
	ハダニ類 アブラムシ類	平年並 やや多	平年並 やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(5月27日から6月26日までの天候見通し)

平成29年5月25日
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは、気温がかなり高い見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】近畿地方	10	30	60
【降水量】近畿地方	30	40	30
【日照時間】近畿地方	30	40	30

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 近畿地方	10	20	70
2週目 近畿地方	20	30	50
3～4週目 近畿地方	20	40	40

凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月	: 5月27日(土)～ 6月26日(月)
1週目	: 5月27日(土)～ 6月 2日(金)
2週目	: 6月 3日(土)～ 6月 9日(金)
3～4週目	: 6月10日(土)～ 6月23日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（葉いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

5月下旬の時点で県内における発病は認めていないが、今後の気象条件は1か月予報によると気温はやや高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

- (3) その他

6月上旬より梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上でBLASTAMによるいもち病の感染好適日の情報を提供予定なので参照にされたい。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)

2 【ばか苗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

5月下旬の時点で県内の一部において苗で発病を認めている。今後の気象条件は1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

発病苗は早期に抜き取る。本田移植後、発生がみられた場合は、発病株の抜き取りを徹底する。

3 【ヒメトビウンカ（縞葉枯病）】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬のムギ県予察ほ調査では成虫は認められなかったが、幼虫が123頭/10回振と平年の45.6頭と比べてやや多かった。今後成虫になるに伴って育苗場所、あるいは移植されたイネに飛来すると考えられる。

イ これまで、ヒメトビウンカの発育ステージは平年並で経過しているが、今後気温が高く推移することによって、短期間で成虫まで発育が進み、ムギからイネ本田への飛び込みが助長されると考えられる。このことより、縞葉枯病の発生が増えることが懸念される。前年度に本病が多発したほ場周辺およびムギ周辺ほ場では注意が必要である。

- (3) 防除上の留意点

箱施用殺虫剤の施用を徹底する。薬剤については兵庫県農薬情報システム等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

- (4) その他

今年度の第1世代虫（ムギ採集個体）におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果を6月中旬頃に発表する予定であるので、こちらの情報も参考にされたい。

4 【海外飛来性ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

ア 本県ではまだ飛来が確認されていないが、今後梅雨前線の活動に伴い飛来が予想される。

イ 飛来時期、飛来量によっては、被害が懸念されるので注意が必要である。

ナシ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

5月下旬の時点では県内で発病をわずかに認めている。今後の気象条件は1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並み、日照時間は平年並と予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【黒星病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

5月下旬の時点では県内で発病をわずかに認めている。今後の気象条件は1か月予報によると気温はやや高く、降水量は平年並、日照時間は平年並みと予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

5月下旬の県予察ほの調査では、発生葉率1.7%とわずかながらに発生が認められた。今後、気温の上昇に伴い、平年並の発生が予想される。

4 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠

5月下旬の県予察ほの調査では、発生葉率6.7%とやや多い発生があった。今後、発生盛期は過ぎるものの好適な気象条件が続くため、やや多い発生を維持するものと予想される。

- (3) 防除上の留意点

薬剤については兵庫県農薬情報システム等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)